

発 言 通 告 書 要 旨 (1 枚目 / 全 2 枚)

氏 名 林 直 史

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
1			子ども・高齢者の移動支援実証事業について 7月から9月までの3か月間、小・中・高校生と70歳以上の高齢者を対象に、乗合タクシーによる移動支援の実証事業が提案されている。これまでも利用者から「予約が取りづらくなった」などの苦情をお聞きし改善を望んでいた立場からも、この事業に大変に期待を寄せている。 そこで、この事業の目的や詳細について示せ。	
2			自治会支援アプリの導入について 少子高齢化が進む加賀市では、地域共生社会の実現は、最も重要な課題の一つである。そのような中、自治会の果たす役割は、ますます重要になっている。 近年、スマートフォンを活用した「自治会支援アプリ」が、一部の自治体で導入されている。高齢者にも配慮したインターフェースで、電子回覧板や掲示板機能、防災情報、安否確認、アンケートなどの機能を持ち、紙媒体との併用を前提にすれば、自治会活動の効率化と高齢者支援を両立できる可能性がある。 そこで、高齢者の見守りや安否確認、防災支援の観点から、「自治会支援アプリ」の導入による効果について、市はどのように考えているのか示せ。また、高齢者が使いやすい設計や、デジタルに不慣れな方への配慮を前提に、加賀市でも「自治会支援アプリ」を導入すべきと考えるが、所見を問う。	
3			タブレット端末を活用した聴覚に障がいのある方などへの翻訳支援について 東京都練馬区では、聴覚に障がいのある方などへの窓口対応を円滑にするため、コミュニケーション支援アプリが利用できるタブレット端末を窓口を設置している。これにより、筆談や音声認識、手話通訳など、利用者のニーズに応じたコミュニケーション手段を選択できるようになっている。加賀市においても先進事例を参考に、障がいのある方々が安心して利用できる窓口サービスの充実を図るべきである。 そこで、障がいのある方が窓口で対応を受ける場合、視覚や聴覚、移動に障がいがある方々への配慮はどのように行われているのか。また、窓口職員が障がいのある方々に対して適切なサポートを提供できるよう、研修などは実施しているのか。 また、加賀市においてもタブレット端末を活用した、聴覚に障がいのある方などへの翻訳支援を導入すべきと考えるが、所見を問う。	

発 言 通 告 書 要 旨 （ 2 枚 目 ／ 全 2 枚 ）

氏 名 林 直 史

発言番号			発言事項及び発言要旨	備 考
4			子育て世代へのワンボックスカー購入補助金について 加賀市では、子育て世代の移動手段として自家用車の利用が欠かせない。特に複数の子どもを持つ家庭や、祖父母との同居世帯においては、7人乗り以上のワンボックスカーが必要とされるケースが多いが、これらの車両は購入費用や維持費が高額であり経済的負担が大きいことから、購入を躊躇する家庭も少なくない。他自治体においては、子育て世代や若年層を対象に電気自動車の購入経費の一部助成や、県外からの移住者を対象にマイカー取得補助金を交付し、移住促進と地域定住を支援する自治体もある。 これらの事例を参考に、加賀市においても、子育て世代の移動支援と経済的負担軽減を目的とした、「ワンボックスカー購入補助金」の導入を検討すべきと考えるが、所見を問う。	